

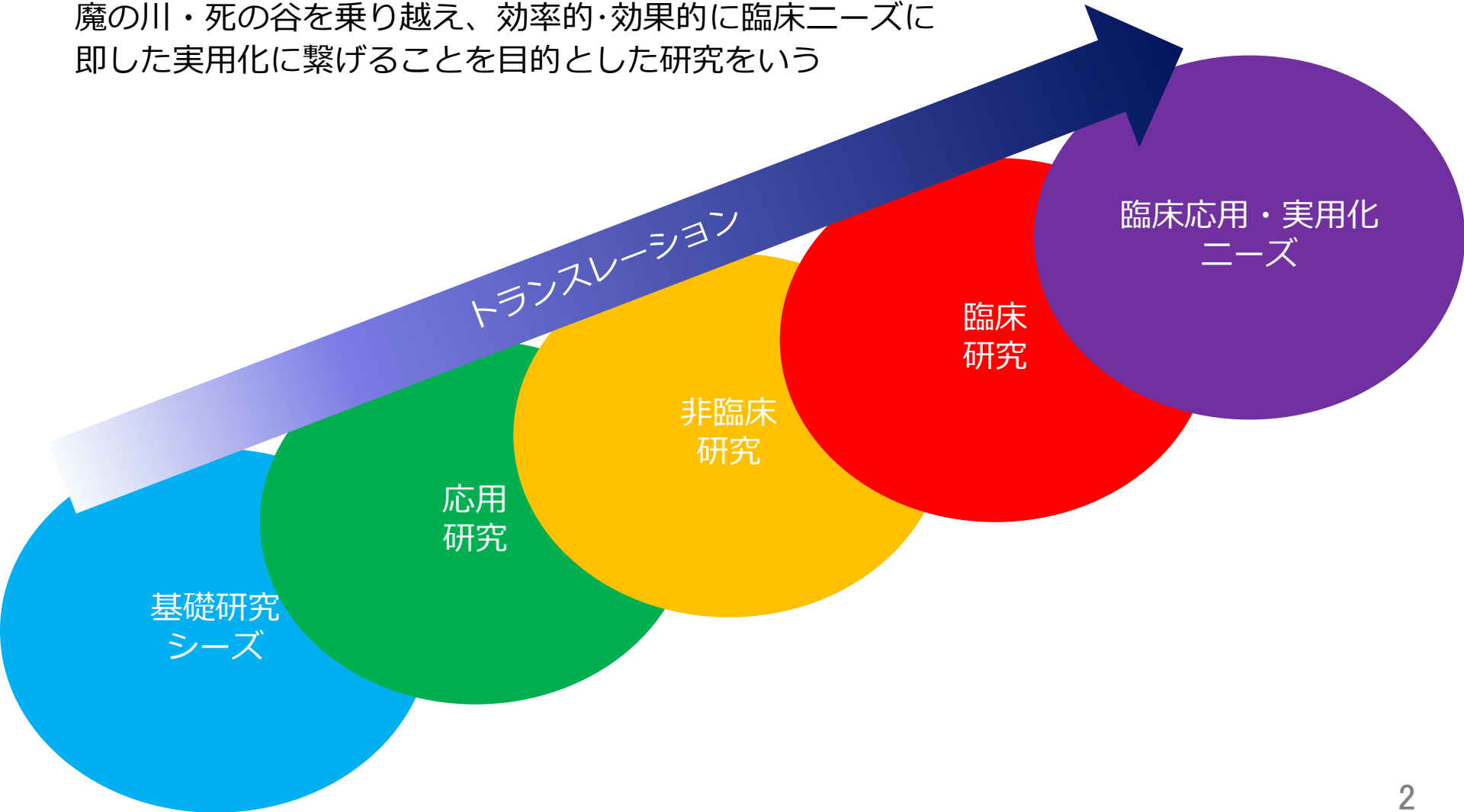


2026年度 橋渡し研究プログラム 研究開発課題募集説明会

京都大学医学部附属病院
先端医療研究開発機構
(iACT)

橋渡し研究(トランスレーショナル・リサーチ)

- ・疾患領域やモダリティといった横断的視点ではなく、研究を縦断的視点で捉えた表現
- ・有望な基礎研究シーズを見出し、医薬品等の開発に要する試験物製造から臨床研究に至るまでの工程を一体的に捉えて開発戦略を策定することにより、魔の川・死の谷を乗り越え、効率的・効果的に臨床ニーズに即した実用化に繋げることを目的とした研究をいう



橋渡し研究支援の仕組みと認定機関

文部科学省では、大学等の優れた基礎研究成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援するため、下記1～4の機能を有する機関を「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣が認定する仕組みを令和3年3月に新たに設けました。

1. 高度かつ先進性の高い基礎研究成果や臨床現場からのニーズに基づくシーズの発掘・育成及び非臨床試験から臨床試験への展開を通じた実用化支援機能
2. 実用化支援が滞りなく進むよう管理・推進するプロジェクトマネジメント機能
3. 研究者に寄り添ったコンサルティング機能
4. 実用化研究に係る人材育成機能

AMEDの専門委員会での審査等を経て、12機関が令和6年11月までに認定されています。

5機関が令和7年3月に異分野融合型研究開発推進支援事業（シーズH）に採択されています。（★）

※文部科学省HPより引用改変
橋渡し研究支援機関認定制度
https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/hashiwatashi/index.htm

認定された橋渡し研究支援機関



シーズH, A, preF, B, F, C(a), C(b), F#

対象疾患/
開発品決定

特許出願

非臨床試験項目
PMDA合意

非臨床POC

臨床試験計画
PMDA合意

臨床POC

萌芽的研究

基礎研究

応用研究

非臨床研究

臨床研究・治験

シーズF

企業との連携推進を義務化し、企業からのコミットメントを求め、実用化の加速のための産学協働で非臨床/臨床POC取得を目指す課題

7,000万円/課題、2年間 →
(ステージゲート通過課題のみ) 9,000万円/課題、3年間

シーズF#

産学協働で臨床POC取得を目指す課題

9,000万円/課題、3年間

シーズC (b)

臨床POC取得を目指す課題

8,000万円/課題、3年間

シーズC (a)

臨床試験計画の策定および臨床POC取得を目指す課題

1,000万円/課題、1年間 →
(ステージゲート通過課題のみ) 8,000万円/課題、3年間

シーズB

非臨床POC取得を目指す課題

5,000万円/課題、3年間

シーズpreF

非臨床POC取得に必要な試験パッケージの策定を目指す課題

1,000万円/課題、2年間

シーズA

特許取得等を目指す課題

橋渡し研究支援機関で研究費を決定
330万円程度/課題、1年間

シーズH (異分野融合型)

非医療分野の技術移転と医療応用を目指す課題

橋渡し研究支援機関で研究費を決定
330万円程度/課題、1年間

橋渡し研究支援機関の認定



拠点内審査による採否（拠点への申請）

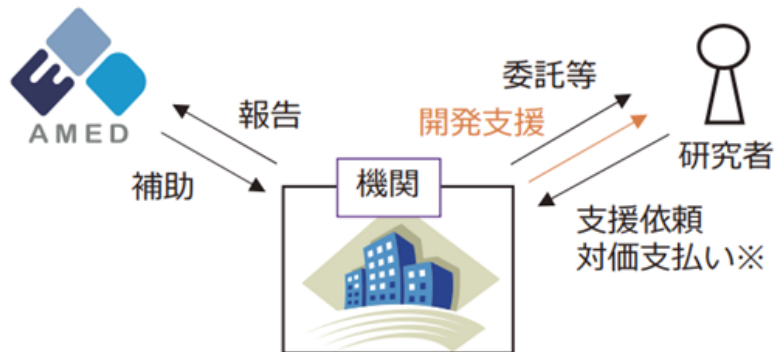
AMED内審査による採否（研究者と拠点の連携によるAMED申請）

機関の役割とプログラムの実施体制

フェーズに応じた戦略的シーズ開発

◆Early phase : 基礎～応用

【異分野】 機関内外の支援依頼シーズについて、
【シーズA】 機関内の評価委員会の判定に基づき
機関の裁量で研究費を配分



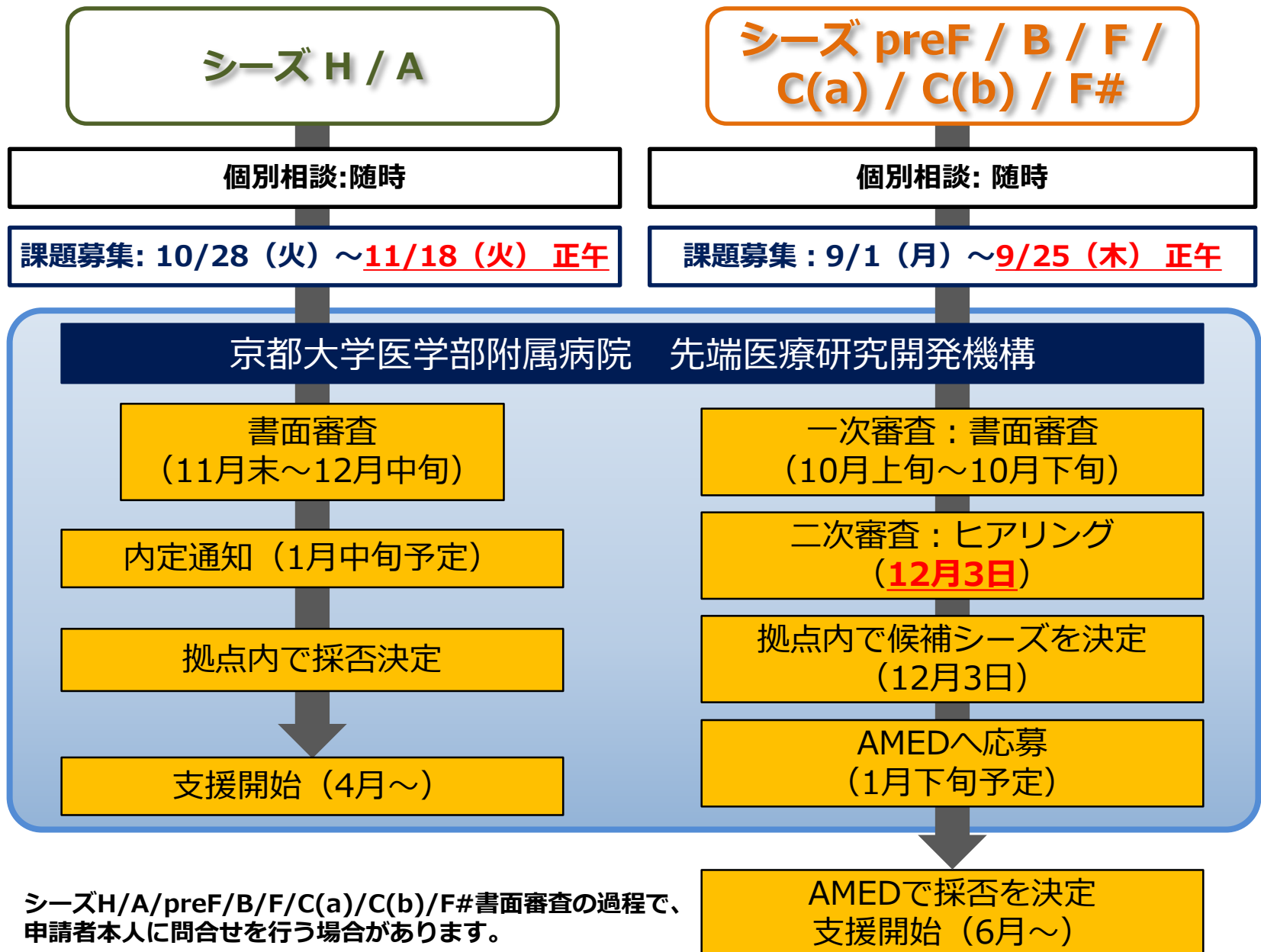
◆Late phase (応用～臨床、産学協働)

【preF】 機関内外からの支援依頼シーズのうち、研究費支援を
【シーズF】 希望するシーズについて、機関がAMEDに支援候補
【シーズB】 シーズとして申請
【シーズC】



※橋渡し研究支援機関は医療実用化のための開発支援を行い、研究者は受給した研究費から支援に対する対価を支払う仕組みになっています。

公募スケジュール



※ シーズH/A/preF/B/F/C(a)/C(b)/F#書面審査の過程で、申請者本人に問合せを行う場合があります。

機関支援機能について

先端医療研究開発機構 (2024.7～)



Institute for Advancement of
Clinical and Translational Science



医学部附属病院長

機構長

副機構長

副機構長

戦略・広報室

ビジネスディベロップメント室

基礎・応用・非臨床

臨床

医療開発部

～基礎から臨床応用・実用化への開発戦略立案を促進・支援～

医薬品・再生医療支援ユニット

医薬品・再生医療シーズ支援

医療機器・体外診断薬支援ユニット

医療機器・体外診断薬シーズ支援

データサイエンス部

～サイエンスで医療開発と臨床研究支援をバックアップ～

モニタリングユニット

モニタリング

データマネジメントユニット

データ管理

生物統計ユニット

生物統計、バイオインフォマティクス、リアルワールドデータ解析

IT支援ユニット

機構内IT支援

臨床研究推進部

～附属病院の臨床研究・治験の実施を推進・支援～

臨床研究アドミニストレーションユニット

特定臨床研究等実施管理委員会事務局、臨床研究に関する院内調整

臨床研究ナビゲーションユニット (臨床研究相談窓口)

臨床研究ナビゲーション・患者相談窓口、臨床研究相談窓口、臨床研究実施支援、安全性情報管理

スタディマネジメントユニット

スタディマネジメント

臨床研究コーディネーターユニット

CRC、治験事務局/IRB事務局、試験薬管理、臨床研究実施支援

国際連携ユニット

臨床研究国際連携

監査ユニット

臨床研究監査

教育・研修ユニット

臨床研究教育・研修

次世代医療・iPS細胞治療研究センター
(Ki-CONNECT)

先制医療・生活習慣病研究センター

クリニカルバイオリソースセンター
(CBRC)

先端医療機器開発・臨床研究センター
(CRCMeD)

臨床研究戦略課 (事務部)

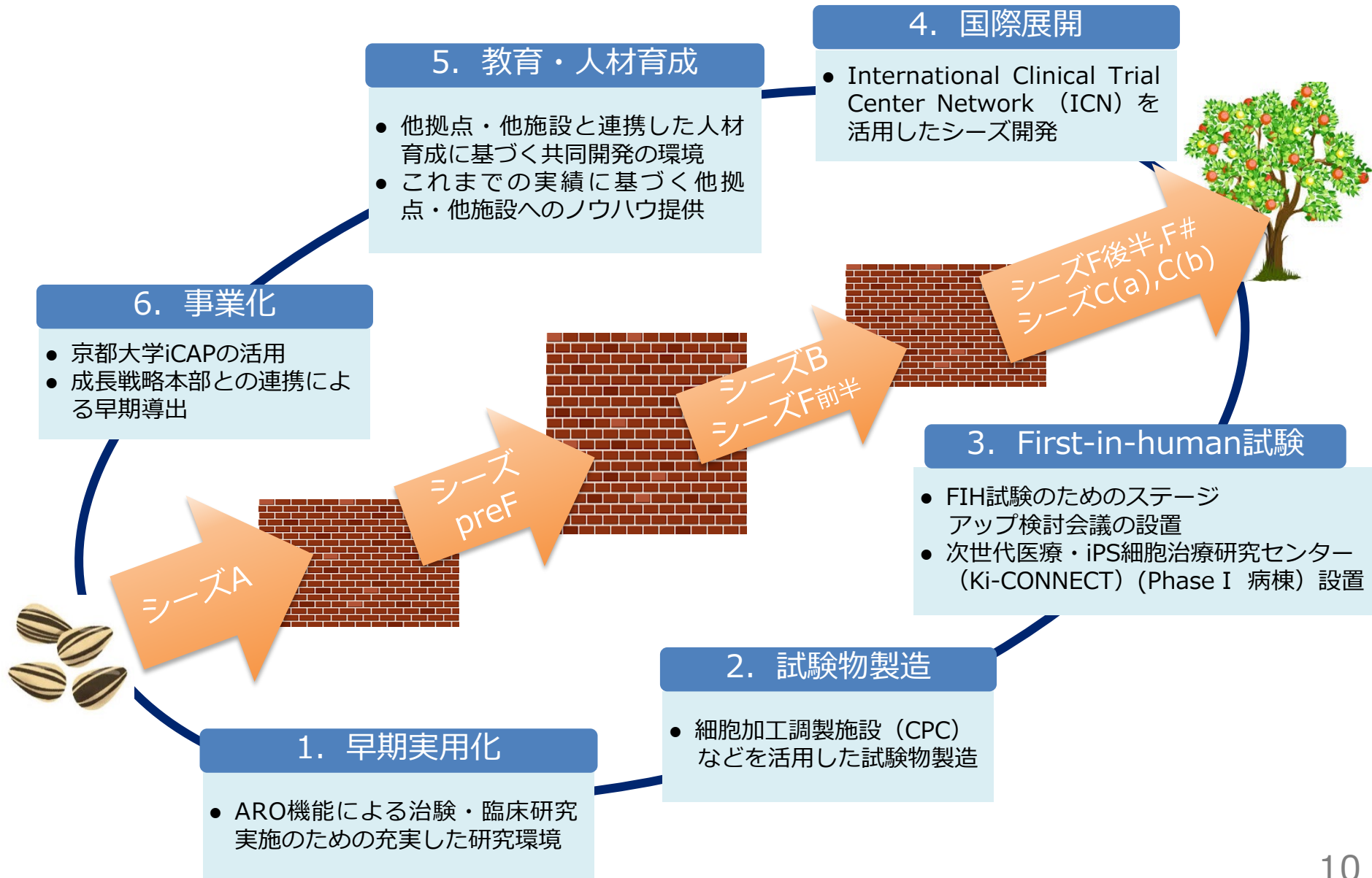
先端医療研究開発機構の支援実績

2025年7月現在

No	シーズ番号	製品名	効能・効果/使用目的	申請区分	機器クラス 分類	一般的名称	承認年月日
1	TR-006	メトレレプチン皮下注用11.25mg「シオノギ」	脂肪萎縮症	新有効成分 含有 医薬品	-	-	2013/3/25
2	C-002	注射用レザフィリン100mg	化学放射線療法又は放射線療法後の局所遺残再発食道癌	新効能 医薬品	-	-	2015/5/26
3		EC-PDTプローブ		改良 医療機器 (臨床あり)	クラスⅢ	単回使用PDT半導体レーザー用プローブ	
4		PDレーザー		改良 医療機器 (臨床あり)	クラスⅢ	PDT半導体レーザー	
5	C-005	サンコン Kyoto-CS	スティーヴンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症による眼後遺症患者	新 医療機器	クラスⅢ	輪部支持型角膜形状異常眼用コンタクトレンズ	2016/2/15
6	TR-010	X-TAL アルカリポーラススプレー	腰椎（L1～L5）の前方側方からの固定術の適用が必要な患者	改良 医療機器 (臨床なし)	クラスⅢ	脊椎ケージ	2018/3/16
7	TR-011	ペルナックGプラス	全層皮膚欠損創	改良 医療機器 (臨床あり)	クラスⅢ	コラーゲン使用人工皮膚	2018/4/10
8	C-004	da Vinci サージカルシステム、da Vinci Si サージカルシステム、da Vinci Xi サージカルシステム、	頭頸部外科（経口的に行う手術に限る。）の内視鏡手術	改良 医療機器 (臨床あり)	クラスⅢ	手術用ロボット手術ユニット	2018/8/21
9	C-011	パージェタ点滴静注420mg/14mL	HER2陽性の早期乳癌	新効能 医薬品	-	-	2018/10/10
10	B-016	シュアファインド	肺癌	改良 医療機器 (臨床なし)	クラスⅢ	植込み型病変識別マーカ	2018/12/20
11	B-026	MIPS手術支援装置	消化器疾患における外科手術（肝切除など）、センチネルリンパ節の同定	改良 医療機器 (臨床なし)	クラスⅡ	ICG蛍光観察装置	2019/11/20
12	C-021	サクラシー	角膜上皮幹細胞疲弊症における眼表面の癒着軽減	新 再生医療等製品	-	ヒト羊膜基質使用ヒト（自己）口腔粘膜由来上皮細胞シート	2022/1/20
13	γ-004	ティーエスワン（配合カプセルT20、配合カプセルT25、配合顆粒T20、配合顆粒T25、配合OD錠T20、配合OD錠T25）、エスワンタイホウ（配合OD錠T20、配合OD錠T25）	ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌における術後薬物療法	新効能 医薬品 、 新用量 医薬品	-	-	2022/11/24
14	C-024	シルクエラスチン創傷用シート	全層創傷及び部分層創傷	改良 医療機器 (臨床あり)	クラスⅢ	吸収性創傷被覆・保護材	2025/5/7

計14件

京都大学機関を活用する利点



■ アカデミア研究開発力の強化

- ・ 異分野融合型研究開発の推進（メンタリング、臨床医とのマッチング）
- ・ バイオマテリアル医療、再生医療などの開発実績



■ 研究開発プログラム

- ・ イノベーションハブ京都交流会（研究者、企業人、起業家の交流の場）
- ・ 研究推進セミナー（研究者への臨床研究に関するトピックの紹介）



■ 非臨床開発から臨床開発までのシームレスな支援

- ・ 競合品調査および非臨床試験、臨床試験、TPPの提案
- ・ 競争的資金の獲得支援（例：AMED事業への申請支援）



■ 大学発ベンチャーへの支援

- ・ 資金獲得に向けた海外投資家とのマッチング支援
- ・ ベンチャーに対する公的予算獲得相談



医薬品シーズへの支援

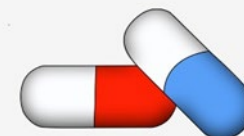
(市場調査、非臨床試験、臨床試験、TPPの提案)

ご希望に
応じ対応

- 創薬シーズについては、シミック・ホールディングス社に開発物の競合品、非臨床試験、臨床試験の調査を依頼し、Target Product Profileの提案を受けることができます。
- 費用はシーズ研究費からの支払いが可能です。
- 調査結果は、AMEDの各種事業の申請に利用可能です。

<調査報告書の目次>

- 急性骨髄性白血病（AML）の治療薬状況
- エグゼクティブサマリー
- AML治療ガイドライン
- 日米EU5カ国のAML患者数
- AML治療薬の売上予測
- AML治療薬の開発状況
- AML治療薬の臨床データ
- AMLに対するアンメットニーズ
- AML治療薬の開発に必要な非臨床試験項目
- AML治療薬の開発に必要な臨床試験項目
- AML治療薬の導入を検討している企業の例
- 総論：Target Product Profile



シーズ商談会に積極的に出展し、 早期にパートナー企業との提携を図り実用化を推進

■ DSANJ Digital Bio Conference (Drug Seeds Alliance Network Japan)

大阪商工会議所が運営事務局となり、創薬シーズ（創薬）・基盤技術（創薬に使われる技術）、バイオマーカー・診断薬・試薬の研究・開発成果を収集、蓄積した上で製薬企業に紹介し、日本国内での創薬活動を促進するためのプログラム

開催頻度・時期：年2回（夏季・冬季）

出展実績：2018～2025年度現在：合計19課題（予定も含む）

■ BioJapan

展示・セミナー・パートナーリングで構成されるアジア最大級のパートナーリングイベント。世界で最も歴史のあるバイオテクノロジー展「BioJapan」（1986年～）

開催頻度・時期：年1回（10月）

出展実績：2024年度：合計2課題

■ その他、近畿バイオ主催の商談会も参加予定

- AMEDより委託を受けた(株)日本総合研究所による開発支援
- 研究者の課題認識・検討熟度に応じて、下記7つの支援を提供
- AMED、(株)日本総合研究所、研究代表者（+研究分担者）、拠点PMを中心にオンライン打合せを行い、検討を進めます。

市場性	1 適応疾患・適応用途の拡がり追及（市場性のポテンシャル最大化）
	2 利用シーン・適応患者像・臨床的意義の仮説構築、臨床医ヒアリングによる検証
競合優位性	3 競合技術俯瞰、競合優位性の仮説検討
実現可能性	4 vitro/vivo/ex vivo評価系、評価項目の洗い出し
	5 短期研究開発計画、ゲート・マイルストーンの検討
事業性	6 対象患者数・市場規模感推計、対象拡大シナリオの検討
	7 事業・収益モデル、サービス提供モデルの検討

創薬ブースター 各ステージにおける支援内容



橋渡し研究との連携枠もあり、医薬品シーズで積極活用

AMED ホームページ : https://www.amed.go.jp/program/list/11/02/001_01-01.html 15



臨床研究推進セミナー

ご希望に
応じ参加

■ iACTでは、様々な育成セミナーを提供しています

2024年度

	開催日	内容
第1回	2024/4/23	クリニカルサイエンス -原理と実践-
第2回	2024/5/17	リサーチ・クエスションの作成:臨床研究イントロダクション
第3回	2024/5/27	慢臨床研究に必要な補償と保険の基礎知識
特別企画	2024/5/28	治験候補患者ご紹介のお願いに関する工夫
第4回	2024/6/7	ゴールを見据えた臨床研究の枠組み
第5回	2024/6/12	特定臨床研究の誤解を解く～留意点とiACTの支援～
第6回	2024/6/17	臨床研究に必要な補償と保険の基礎知識
特別企画	2024/6/25	臨床研究 初めの第一歩／システムの使い方など
特別企画	2024/7/11	科研費採択の秘訣 ～若手研究申請を中心に～
第7回	2024/7/18	研究者のための知的財産入門講座
第8回	2024/7/23	臨床研究計画の策定とデータ収集戦略
特別企画	2024/8/1	橋渡し研究に取り組んでみませんか？ ～2025年度橋渡し研究プログラム研究課題募集説明会～
第9回	2024/9/3	監査の種類』＆『利益相反』＆『監査の目線でみた臨床研究法研究』
第10回	2024/9/5	基礎研究成果を実用化するために知っておくべきこと
特別企画	2024/9/26	倫理審査申請について(倫理指針に係る個人情報の取扱いと一括審査)
特別企画	2024/9/27	AI×臨床研究～働き方改革時代における効率的な臨床研究の在り方を探る～
特別企画	2024/10/17	臨床研究に必要な資金を獲得するためには ～AMED事業を中心に～
特別企画	2024/10/22	論文のオープンアクセス化 図書館が支援します
第11回	2024/10/31	重大な不適合について
ワークショップ	2024/11/5	京大病院に通院・入院中の患者さんご家族のためのがんセミナー「すごろくを通して『くすり』の旅へ」
第12回	2024/11/5	ストーリーで考えるリサーチ・クエスションの作り方
医師研修	2024/11/22	質の高い臨床研究・治験の実践を目的とした医師・歯科医師のための研修
第13回	2024/12/6	単変量と多変量の解析、どう使うの？
特別企画	2024/12/18	我が国の臨床研究の動向を知る
第14回	2024/12/23	臨床研究におけるデータマネジメント
市民公開講座	2025/1/19	未来の医療のためにーiPS細胞を活かした治療開発と将来展望ー
第15回	2025/1/24	先進医療・患者申出療養等について
研修	2025/1/25	上級者臨床研究コーディネーター養成研修
特別企画	2025/2/3	PMDAレギュラトリーサイエンス(RS)相談の活用法
研修会	2025/2/14	訪問&病院看護師むけ臨床研究・治験研修会
特別企画	2025/2/14	DCTの課題と未来を考える
シンポジウム	2025/2/26	再生医療シンポジウム「再生医療の開発を成功に導くための要素とは～見えてきた課題に対して～」

※ 詳細については、iACTのHPをご覧ください(<https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/seminar>) 16



イノベーションハブ京都 交流会

ご希望に
応じ参加

■ 様々な育成セミナーをIHK交流会としてオンラインで提供致します

2024年度

開催日	講師	内容
2024/6/11	北岡 義隆 (iACT)	プロジェクトMeBKY「医療機器開発の秘訣」
2024/6/26	八木 秀樹 (ニプロ株式会社)	<共同開発マッチングセミナー>「ニプロと医療機器開発をしませんか」
2024/9/11	波多野 悦朗、西野 裕人、影山 詔一、 山根 佳 (肝胆膵移植外科)	プロジェクトMeBKY3「診療科紹介・臨床ニーズ発表」<肝胆膵・移植外科>
2024/9/24	尾野 亘、長央 和也、渡邊 真 (循環器内科)	プロジェクトMeBKY4「診療科紹介・臨床ニーズ発表」<循環器内科>
2024/10/21	荒川 芳輝、野 徳隆、池堂 太一、千 原 英夫 (脳神経外科)	プロジェクトMeBKY5「診療科紹介・臨床ニーズ発表」<脳神経外科>
2024/10/24	原 陽介 (株式会社ヘルスケアビジネス総合研究所)	デザイン思考で革新する大学発医療機器開発
2024/10/30	小林 啓治 (武田病院)	介護現場におけるDX化の現状と課題
2024/12/7	原 陽介 (株式会社ヘルスケアビジネス総合研究所)	デザイン思考 ワークショップ
2024/12/21	泉 晃 (SREホールディングス株式会社ほか)	医療AIセミナー・ワークショップ
2025/2/26	富永 朋 (株式会社プリメディカ)	失敗事例から学ぶ～医療系スタートアップ経営の要諦

※詳細についてはこちらをご覧ください (<https://ku-med-device.jp/hrd/ihk/>)



医療機器に関する育成プログラム HiDEP

ご希望に
応じ参加

2025年度の予定

医療ヘルスケア・イノベーション起業家人材育成プログラム

HiDEP

3カ月の育成プログラム

講義編

- 薬機法
- 医学系
- 経営学系

実践編

- 臨床現場ニーズ(課題)発掘
- ソリューション検討
- プロトタイピング
検証

最終発表
DemoDay

【日程】2025/7/5～9/20 土曜(10:00-)13:00-17:00

【形態】講義編:オンライン/オンサイト

演習編:オンサイト

イノベーションハブ京都(医薬系総合研究棟)

講義編		演習編	
第1日 7/5	イントロダクション 起業家講演 デザイン思考(ワークショップ)	第1日 7/19	演習編イントロダクション ワークショップ チーム発表/メンタリング
第2日 7/12	スタートアップ法務 医療機器開発の基礎	第2日 8/23	起業家講演 医療機器開発の実際 チーム作業/メンタリング
第3日 8/9	医療機器の承認審査・保険収載 デジタルヘルス マーケティング	第3日 9/20	最終発表/メンタリング/審査 起業とは 結果発表
第4日 8/30	アントレプレナーシップ 知的財産入門 ファイナンス	チームに分かれ、臨床ニーズ起点で ビジネスプランを創り上げます。	

<https://mebky.kuhp.kyoto-u.ac.jp/hrd/hidep/>

2024年度の開催例

HiDEP *advance*

HiDEPにつづく3カ月プログラム

目的

J A P A N
B I O D E S I G N
O S A K A

解決したい臨床ニーズを持ち、**本気で起業
したい方を対象としたプログラム**です。

Japan Biodesign Osakaの支援を受け、3ヶ月間で徹底的に、ニーズ視点で課題や市場規模などの検証を行い、事業性の高いコンセプト創出、補助金申請が可能なレベルのアウトプットを目指します。

実施日	内容
11/6	チーム発表/メンタリング、講義・実習 プロセス概要、講義・事例紹介
11/20,28	ニーズの定義・検討
12/4,11,18	ニーズの特定・調査
1/8,15	コンセプトの検討
1/22	事業化戦略
1/29	最終発表/フィードバック



2025年度の日程が確定次第
周知いたします

<https://mebky.kuhp.kyoto-u.ac.jp/hrd/hidep-a/>

京都大学ライフサイエンスショーケース @ San Diego

これまでの実施例

－ 国内アカデミア発スタートアップ企業対象の米国資金調達のためのイベント

開催状況	2020年より毎年2月下旬ごろに開催 (第2回、3回はコロナ渦によりWeb開催・ショーケースのみ)
内容	ショーケース／米国内での起業・製品化に関するセミナー／ 現地インキュベーター見学ツアー
発表企業	第1回5社、第2回18社、第3回16社、第4回14社、第5回11社、第6回 11社(国内企業7社、 海外招待企業4社)(2025.2.20~21) 橋渡し支援シーズ発のベンチャー企業も発表
発表企業募集 スケジュール*	募集期間:10月中旬～11月中旬 審査期間:12月初旬～12月中旬 発表企業決定:12月中旬

* 2024年度スケジュール



参考) 第6回発表企業募集サイトは <https://kuls.info/kuls25-presenter>
第6回視聴参加者募集サイトは <https://kuls.info/kuls2025>

2025年度が開催が確定次第、日程等周知いたします

シーズH/A 支援内容

実施内容	担当部門	
	iACT	所属機関
研究費提供	提供	手続き
契約等手続き	依頼	手続き
計画書・報告書・知的財産権出願通知書	依頼	手続き
PMアサイン	実施	
知財ミニ講義 + ワークショップ(特許検索)	実施	
セミナーの提供 (開発、知財等)	実施	
委託による競合品、市場調査、TPPの作成	調査会社の紹介	調査会社への委託
公的資金獲得支援	面談/相談会	
大学発ベンチャー支援(UCSDショーケース)	実施	
臨床医とのマッチング支援	個別紹介/マッチング会	
企業とのマッチング支援	個別紹介/マッチング会 (AMED商談会、DSANJ)	

シーズpreF/B/F/C(a)/C(b)/F# 支援内容

項目		内容
シーズ preF/B/F (非臨床ス テージ)	① 開発戦略立案	開発戦略相談、ロードマップ等の立案、 非臨床にかかるコンサルテーション
	② プロジェクトマネジメント	プロジェクトの進捗管理、関係部署の調整
	③ 開発薬事	薬事にかかるコンサルテーション、規制当局対応
	④ 外部専門家への研究相談	外部専門家への非臨床開発に関する個別相談
シーズF/C (臨床ステ ージ)	①	スタディマネジメント、メディカルライティング、安全性情報管理、データマネジメント、 統計解析、モニタリング、文書管理
共通	① 各種セミナーの提供	・知財、薬事、特許庁、PMDA、開発事例、ベン チャー、ファイナンス等
	② 公的資金獲得支援 (橋渡し事業以外を含む)	・情報提供 ・AMED個別相談会

シーズH

■ 支援対象となる課題

(1)の条件を必ず満たす課題。また、(2)、(3)、(4)のいずれかを満たす課題。

- (1) 医療応用を目指した研究開発課題であり、医学・歯学・薬学系以外の先端技術・知識を活用して医療イノベーションを実現する研究開発課題
- (2) 薬機法対象の医薬品・医療機器・再生医療等製品・体外診断用医薬品を研究開発する課題においては、期間内に要素技術の原理確認を行う基礎研究（シーズA前の開発ステージを想定）を実施予定で、期間終了までにシーズAへの応募や医療実用化に関する他研究費事業への応募を目指す研究開発課題であることに加え、将来的に企業と連携した上での特許出願・特許網構築について努力していく予定の研究開発課題
- (3) 薬機法対象の医薬品・医療機器・再生医療等製品・体外診断用医薬品の開発に用いる基盤技術を研究開発する課題においては、期間内に要素技術の原理確認を行う基礎研究を実施予定で、将来的に起業又は企業と連携し事業化を目指す研究開発課題
- (4) 医療現場において先端技術が社会的に受け入れられるための技術アセスメントやELSI（倫理的・社会的・法的課題）、ガイドライン提言等への取組を開始する研究開発課題

■ 応募者資格

- ・ 異分野融合型研究シーズの登録期間内（2026年4月1日 ～ 2027年3月31日の1年間）に退職などの異動の予定がなく、申請時の研究体制が維持できること。
- ・ 研究開発代表者または同じ研究を実施されているチームの方が、当機構が企画する定期的なコンサルテーションに参加する意思があること。
- ・ 研究開発代表者が大学・研究機関等所属の研究者（常勤）であり、かつ医学部、歯学部、薬学部（研究科）に属していないこと。
- ・ 研究開発代表者が医学部、歯学部、薬学部（研究科）以外の「医学」「歯学」「薬学」「生命科学」に関係する学部・研究科・附置研究所に所属する場合は、研究開発代表者が医歯薬免許を持たない研究者である場合のみ応募可能。
- ・ 研究開発代表者が「医学」「歯学」「薬学」「生命科学」に関係しない学部・研究科・附置研究所に所属する場合は、研究開発代表者の医歯薬免許の有無に関わらず応募可能。

研究費額・期間と応募方法

■ 研究費の金額および期間

研究費の金額： 1件あたり **180～330万円**程度※1

採択件数： 拠点内外あわせて **10件**程度

支援期間： 2026年 4月 1日 ～ 2027年 3月 31日

研究費の使用期限:2027年 3月 31日※2

※1 採択件数により、補助金額は変更の可能性があります。

また、支援に要する費用として、補助金より一定金額を当機構に計上いたしますことをご了承ください。

※2 2027年1月中旬に審査を行い、2027年度の継続支援(研究費支給)を判断いたします。

■ 応募方法

当機構HP (<https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/br/>)の【2026年度橋渡し研究プログラム_研究支援課題募集】ページから「**シーズH申請書 (wordファイル)**」ならびに「**シーズH申請用説明スライド (pptファイル)**」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、同HPの申請窓口よりご提出ください。

必ず、申請書と申請用説明スライドの両方を作成し、pdfファイルに変換のうえ、提出してください。

選定基準(3項目)

評価項目	評価ポイント
① 研究の特色・独創性	- 革新性、新規性があるか - 従来技術を越える有用性、利便性などが見込まれるか
② 医療への貢献の可能性	医療上のニーズがあるか
③ 開発可能性 (計画の妥当性含む)	- 医療応用への技術的な課題解決になっているか - 製品に結び付く可能性は高いか - 研究体制は整っているか

総合評価(相対評価): 10点満点

留意点

■ 留意点

- 京都大学を含む橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点または橋渡し研究支援機関※において、すでにシーズHABCとして登録されている又は過去に採択された課題は、本募集に応募することはできません。また、同一研究課題を京都大学以外の橋渡し研究支援機関※に重複して応募することはできません。シーズHAについて、別課題の場合、当拠点に研究開発代表者として応募可能な件数はシーズH、シーズA各1シーズまでとします。
- 他事業との重複申請は可能です。ただし、他事業がAMED事業のような実用化を目的とした事業であり、開発品および対象疾患が同じ課題については、重複受給は不可とします。重複して採択された場合はいずれかを辞退していただく必要があります。
- 当拠点では、「橋渡し研究支援機関」認定化に際しての文部科学省からの要請に基づき、信頼性の高いデータに基づく基礎研究を重視しています。そのため、採択課題に関しては、データの信頼性に関する誓約書の提出をお願いしています。また、鍵となる研究データの頑健性について、支援開始後の初回面談においてご説明いただきます。予めご了承ください。

※京都大学以外の橋渡し研究支援機関（★異分野融合型研究開発推進支援事業採択機関）：
北海道大学、東北大学★、筑波大学、国立がん研究センター、東京大学、慶應義塾★、
藤田学園、名古屋大学、大阪大学★、岡山大学、九州大学★

公募・選考スケジュール

募集案内と個別相談

- ◆ 先端医療研究開発機構HPおよびメールにて募集案内開始
- ◆ **随時** 研究内容に関する個別相談(30分程度)をHP※より受け付け
※ <https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/brform/seeds-inquiry/>

募集期間 (10/28～11/18 **正午締切厳守**)

書面審査 (11月末～12月下旬)

- ◆ 1課題あたりの評価者数(9名程度)

採否決定会議 (1月上旬予定)

- ◆ 書面審査結果をもって採択案件を確定

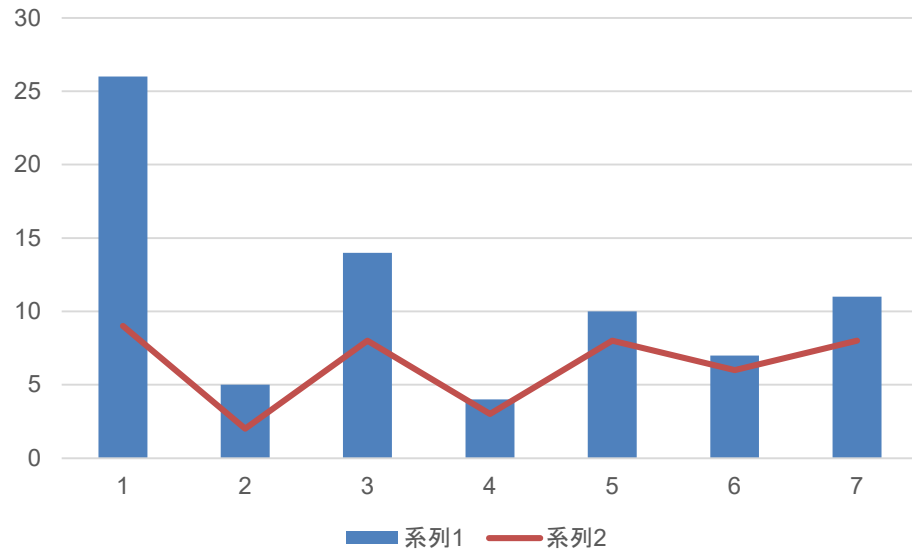
内定通知 (1月中旬予定)

- ◆ 辞退者等の確認

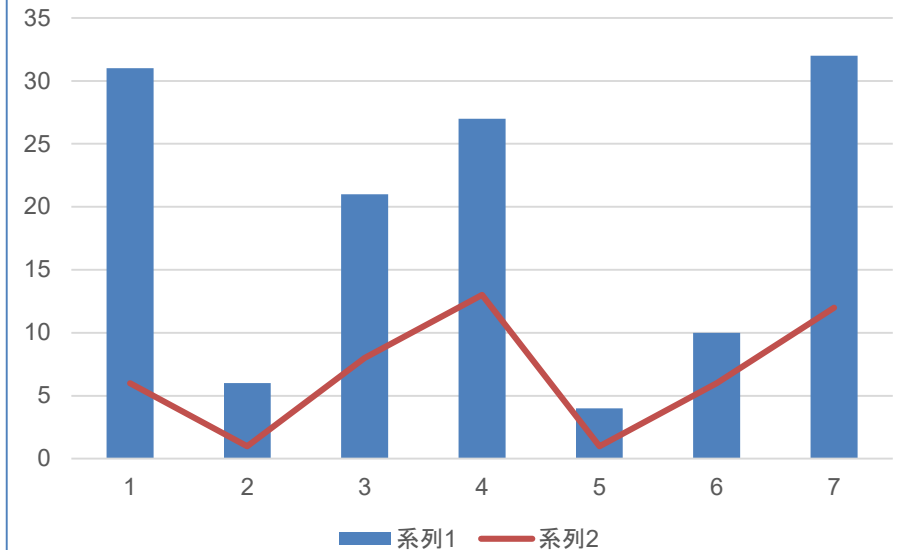
採択通知 (1月下旬予定)

応募・採択の推移

拠点内



拠点外



拠点内の応募数は、減少傾向から2025年度は増加に転じた。
 拠点外の応募数は、2025年度に大幅に増加した。
 拠点内外の2025年の採択率は、以下の通りとなった。
 - 実績：拠点内73%、拠点外38%

シーズA

支援対象課題と応募資格

■ 支援対象となる課題

下記(1)、(2)の条件を満たす課題

- (1) 将来、薬事承認対象となる**医薬品、医療機器、再生医療等製品、体外診断用医薬品**として実用化につながる可能性のある、臨床応用を目指した基礎研究課題
- (2) **2年以内の関連特許出願**を目指す課題

※知財戦略上の理由により特許出願をしない場合はその限りではない。

■ 応募者資格

- ・ シーズAの登録期間内（2026年4月1日～2027年3月31日）に退職などの異動の予定がなく、申請時の研究体制が維持できること
- ・ 研究開発代表者が大学・研究機関等所属の研究者（**常勤**）であること

研究費額・期間と応募方法

■ 研究費の金額および期間

研究費の金額： 1件あたり **180～330万円**程度※1

採択件数： 拠点内外あわせて **15件**程度

支援期間： 2026年 4月 1日 ～ 2027年 3月 31日

研究費の使用期限:2027年 3月 31日※2

※1 採択件数により、補助金額は変更の可能性があります。

また、支援に要する費用として、補助金より一定金額を当機構に計上いたしますことをご了承ください。

※2 2027年1月中旬頃に審査を行い、2027年度の継続支援(研究費支給)を判断いたします。

■ 応募方法

当機構HP (<https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>) の【2026年度橋渡し研究プログラム_研究支援課題募集】ページから「**シーズA申請書 (wordファイル)**」ならびに「**シーズA申請用説明スライド (pptファイル)**」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、同HPの申請窓口よりご提出ください。

必ず、申請書と申請用説明スライドの両方を作成し、pdfファイルに変換のうえ、提出してください。

選定基準(3項目)

評価項目	評価ポイント
①研究の特色・独創性	- 革新性はあるか - 既存の技術に比べて治療効果の優越性はあるか
②臨床的意義 (医療への貢献)	医療現場での必要性はあるか (アンメットメディカルニーズ)
③開発可能性 (計画の妥当性を含む)	- 基礎研究は十分になされているか - 製品に結び付く可能性は高いか - 開発ステージはどこか※ - 連携企業はあるか - 特許出願に結びつく計画か - 研究体制は整っているか - 経費計画は適切か

総合評価(相対評価):10点満点

※医薬品の場合、ターゲットバリデーションが完了し、評価系が構築されていることが望ましい。

留意点

■ 留意点

- 京都大学を含む橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点または橋渡し研究支援機関※において、すでにシーズABCとして登録されている課題は、本募集に応募することはいけません。また、同一研究課題を京都大学以外の橋渡し研究支援拠点※に重複して応募することはできません。別課題の場合、当拠点に研究開発代表者として応募可能な件数は1シーズまでとします。
- 他事業との重複申請は可能です。ただし、他事業がAMED事業のような実用化を目的とした事業であり、開発品および対象疾患が同じ課題については、重複受給は不可とします。重複して採択された場合はいずれかを辞退していただく必要があります。
- 当拠点では、「橋渡し研究支援機関」認定化に際しての文部科学省からの要請に基づき、信頼性の高いデータに基づく基礎研究を重視しています。そのため、採択課題に関しては、データの信頼性に関する誓約書の提出をお願いしています。また、鍵となる研究データの頑健性について、支援開始後の初回面談においてご説明いただきます。予めご了承ください。

※京都大学以外の橋渡し研究支援機関：

北海道大学、東北大学、筑波大学、国立がん研究センター、東京大学、慶應義塾、藤田学園、名古屋大学、大阪大学、岡山大学、九州大学

公募・選考スケジュール

募集案内と個別相談

- ◆ 先端医療研究開発機構HPおよびメールにて募集案内開始
- ◆ **随時** 研究内容に関する個別相談(30分程度)をHP※より受け付け

※ <https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/brform/seeds-inquiry/>

募集期間 (10/28~11/18 **正午締切厳守**)

書面審査 (11月末~12月中旬)

- ◆ 1課題あたりの評価者数(9~10名程度)

選定評価委員会

- ◆ 書面審査結果をもって採択案件を確定

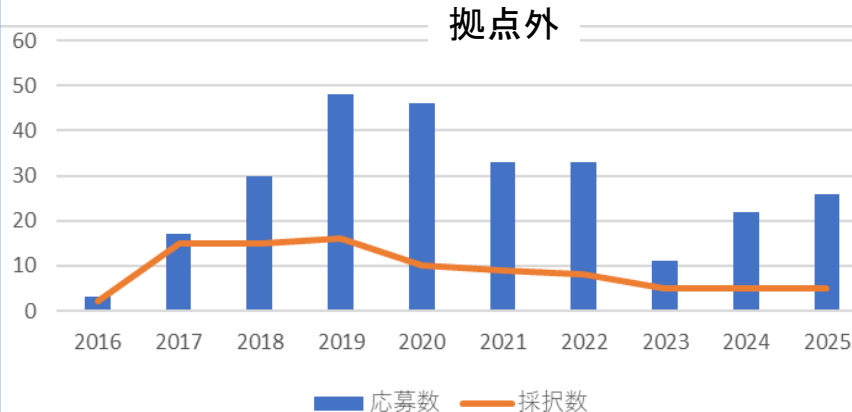
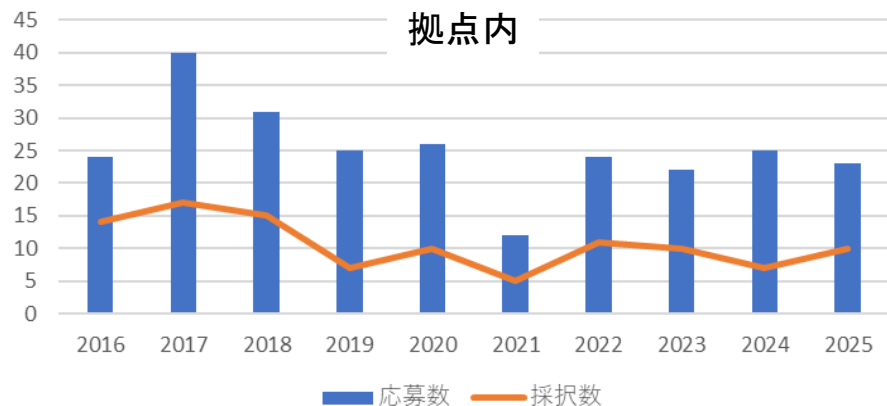
内定通知 (1月中旬予定)

- ◆ 辞退者等の確認

採択通知 (1月下旬予定)



【シーズA新規】これまでの応募数と採択数



拠点内は、平均して20～25件の応募がある。
拠点外は、2019年をピークに減少が続いたが、2024年以降回復傾向にある。
昨年度は、積極的なシーズ発掘を実施して、拠点内外の新規49件の応募を得た。
昨年の採択率は、30%程度となった。

シリーズpreF/B/F/C(a)/C(b)/F#

支援対象課題 委託金額および期間

● 委託金額および期間 (R7年度AMED公募説明会資料参考)

【シーズpreF】 委託金額 : 1,000万円 (直接経費)

委託期間 : 最長2年間

【シーズB】 委託金額 : 上限5,000万円 (直接経費)

委託期間 : 最長3年間

【シーズF】 委託金額 : 上限7,000万円 (ステージゲート通過課題は3年度以降上限9,000万円) (直接経費)

委託期間 : 最長5年間

【シーズC(a)】 委託金額 : 上限1,000万円 (1年度は1,000万円で、2年度以降8,000万円) (直接経費)

委託期間 : 最長4年間

※臨床試験に向けた準備・臨床試験を行う課題

【シーズC(b)】 委託金額 : 上限8,000万円 (直接経費)

委託期間 : 最長3年間

※臨床試験を行う課題

【シーズF#】 委託金額 : 上限9,000万円 (直接経費)

委託期間 : 最長3年間

※臨床試験を行う課題



【シーズpreF】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズpreF】

関連特許出願済み*で、治験開始に必須な**非臨床試験の項目確定**等を目指す研究開発課題を対象とします。

* 知財戦略上の理由により本公募への応募時点で特許出願をしていない場合を除く。

- (1) 導出や実用化に向けた企業との連携体制の構築
- (2) 治験開始に必須な非臨床試験実施項目（特に安全性試験）の確定
- (3) 臨床性能試験開始の準備完了（体外診断用医薬品等の場合）
- (4) シーズFへのステージアップ

【シーズB】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズB】

関連特許出願済みで、最長**3年度以内**に下記のいずれかの目標への到達を目指す研究開発課題を対象とします。また、シーズpreFに該当するものは除きます。

- **非臨床POC取得**及び**治験届提出**を目指す医薬品、医療機器及び再生医療等製品等の研究開発課題
- **薬事申請用臨床データ取得**を目指す体外診断用医薬品等の研究開発課題

(1) 治験を行うのに必要な非臨床POCの取得、シーズC又はF#へのステージアップ、企業導出 等

※シーズFと併願申請可能。どちらも採択候補となった場合はシーズFの提案を優先して採択。

【シーズF】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズF】

関連特許出願済みかつ、開発にあたって**企業連携が確立**しており、最長**5年度以内**に下記の目標への到達を目指す研究開発課題を対象とします。

- **非臨床POC取得** 及び 治験届提出後、**臨床POC取得**を目指す医薬品、医療機器 及び再生医療等製品等の研究開発課題、または 薬事申請用臨床データ取得を目指す体外診断用医薬品等の研究開発課題
- 上記に加え、医療への適応のため**早期・戦略的な企業へ導出**を目指す研究開発課題

- (1) 支援開始後2年度目終了時ステージゲートまでに非臨床POC取得、臨床POC取得に向けた準備完了、後半ステージに向けた企業リソースのさらなる充実の準備
- (2) ステージゲート通過後3年度以内に臨床POC取得、製販企業導出

※シーズBと併願申請可能。どちらも採択候補となった場合はシーズFの提案を優先して採択。

【シーズC(a)】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズC(a)】

関連特許出願及び非臨床POC取得済みで、治験開始を目指して原則1年度以内に臨床試験の準備を完了し、その後2～3年度以内に下記の目標への到達を目指す研究開発課題を対象とします。ただし、研究開発期間終了時に治験又は臨床試験の観察期間（Last Patient Out）まで終了できる研究開発課題を対象とします。

- 健常人又は患者を対象とし、臨床POC取得を目指す臨床研究開発課題
- 治験又は性能試験を行い、承認・認証を目指す医療機器等の臨床研究開発課題

- (1) 支援開始1年度目終了時に設置するステージゲートの時点までに治験製品の製造や臨床試験実施の体制整備等、医師主導治験等の準備完了
- (2) ステージゲート後、研究期間終了までに臨床POC取得、企業導出、薬事承認・認証 等



【シーズC(b)】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズC(b)】

関連特許出願及び非臨床POC取得済みで、最長3年度以内に下記の目標への到達を目指す研究開発課題を対象とします。ただし、研究開発期間終了時に治験又は臨床試験の観察期間（Last Patient Out）まで終了できる研究開発課題を対象とします。

- ・ 健常人又は患者を対象とし、臨床POC取得を目指す臨床研究開発課題
- ・ 治験又は性能試験を行い、承認・認証を目指す医療機器等の臨床研究開発課題

(1) 臨床POC取得、企業導出、薬事承認・認証 等

※シーズF#との併願申請不可。

【シーズF#】 支援対象課題

- 支援対象となる課題

【シーズF#】

関連特許出願及び非臨床 POC 取得済み、かつ開発にあたって企業連携が確立しており、企業の参画を得て最長3年度以内に産学協働で下記の目標への到達を目指す研究開発課題を対象とします。

ただし、研究開発期間内に治験又は臨床試験の観察期間終了（Last Patient Out）まで終了できる研究開発課題とします。

- 臨床 POC 取得を目指す医薬品、医療機器 及び再生医療等製品等の研究開発課題、または 薬事申請用臨床データ取得を目指す体外診断用医薬品等の研究開発課題
- 上記に加え、医療への適応のため早期・戦略的な企業への導出を目指す研究開発課題

(1) 臨床POC取得、企業導出

※シーズC(b)との併願申請不可。

シーズB/Cの過去3年の応募とAMED採択

今回のシーズpreF, B, Fに相当します

シーズB (非臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2024	拠点内	9	7	3	3 (1件辞退)
	拠点外	9	5	3	3
2023	拠点内	15	7	3	2
	拠点外	12	5	0	0
2022	拠点内	18	6	4	3
	拠点外	13	8	4	3

シーズC (臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2024	拠点内	1	1	0	0
	拠点外	1	1	0	0
2023	拠点内	2	2	0	0
	拠点外	0	0	0	0
2022	拠点内	1	1	1	0
	拠点外	2	1	0	0



昨年の応募とAMED採択

シーズpreF (非臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2025	拠点内	6	4	3	2
	拠点外	10	3	0	0

シーズB (非臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2025	拠点内	1	1	1	1
	拠点外	0	0	0	0

シーズF (非臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2025	拠点内	3	2	2	2
	拠点外	0	0	0	0

シーズC (臨床ステージ)	拠点 内外	拠点への応募数	AMED申請数	AMEDヒアリング	AMED採択
2025	拠点内	0	0	0	0
	拠点外	1	1	1	0

【シーズpreF】 選定基準（5項目）

評価項目			評価点
①	科学的意義	- 科学的に妥当性があるか - 基礎研究が十分になされているか - 新規性・革新性があるか	—
②	臨床的意義	- 対象疾患が定まっている（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - 使用目的、または効能・効果が定まっている（医療機器） - 医療現場での必要性（アンメットメディカルニーズ）があるか - 対象疾患の希少性、難病性	—
③	開発方針の妥当性	- 取得予定のPOCの定義およびその証明方法が示している - POCに基づく開発戦略が立てられている - 開発方針に基づく開発計画が立てられている （2年以内にシーズBやシーズFに入る見込みがある（医薬品、再生医療））あるいは （2～3年以内の上市のため企業へ導出の見込みがある（医療機器）） - 開発の阻害要因が明確化されている。 - Go/No-Go基準が明確で妥当である	—
④	研究実施体制	- 共同開発企業（あるいは導出先企業）がいる - 利益相反関係が適切である - 役割分担が適切である - 倫理面への配慮がなされている	—
⑤	開発ステージ	- 開発対象物の最終化の用途が立っている（医薬品、再生医療） - 製品プロトタイプできている、あるいは上市予定品の用途がたっている（医療材料等の医療機器） - 試験物の原理検証ができている（電気・機械系の医療機器） - 作用メカニズムに基づく非臨床有効性データが妥当（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - ヒトへの外挿性を考慮した上で、原理や性能を示す適切な非臨床データを取得している（医療機器） - バックアッププロダクトがあるか（医薬品） - 試験物に予測された効果・性能がなかった場合の対応（仕様変更・条件変更等）について、具体的に検討してある（医療機器、再生医療）	—

総合評価（相対評価）：10点満点



【シーズB/F】 選定基準（5項目）

評価項目			評価点
①	科学的意義	- 科学的に妥当性があるか - 基礎研究が十分になされているか - 新規性・革新性があるか	—
②	臨床的意義	- 対象疾患が定まっている（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - 使用目的、または効能・効果が定まっている（医療機器） - 医療現場での必要性（アンメットメディカルニーズ）があるか - 対象疾患の希少性、難病性	—
③	開発方針の妥当性	- 取得予定のPOCの定義およびその証明方法が示している - POCに基づく開発戦略が立てられている - PMDA相談（非臨床・品質・開発前等）を済ませており、指摘事項への対応がなされている（3年以内にシーズCなどの臨床ステージに入る見込みがある（医薬品、再生医療、医療機器））あるいは（2～3年以内の上市のため企業へ導出の見込みがある（医療機器）） - 開発の阻害要因が明確化されている。 - Go/No-Go基準が明確で妥当である	—
④	研究実施体制	- 適切な評価項目が設定され評価方法が定まっている - 評価方法に特色・優越性がある - 利益相反関係が適切である - 共同開発企業（あるいは導出先企業）がいる - 役割分担が適切である	—
⑤	開発ステージ	- 開発対象物の最終化が来ている（医薬品、再生医療） - 製品プロトタイプできている、あるいは上市予定品の目途がたっている（医療材料等の医療機器） - 試験物の原理検証ができている（電気・機械系の医療機器） - 作用メカニズムに基づく非臨床有効性データが妥当（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - ヒトへの外挿性を考慮した上で、原理や性能を示す適切な非臨床データを取得している（医療機器） - バックアッププロダクトがあるか（医薬品） - 試験物に予測された効果・性能がなかった場合の対応（仕様変更・条件変更等）について、具体的に検討してある（医療機器、再生医療）	—

総合評価（絶対評価）：10点満点



【シーズC(a)/C(b)/F#】 選定基準（5項目）

評価項目			評価点
①	科学的意義	- 科学的に妥当性があるか - 基礎研究が十分になされているか - 新規性・革新性があるか	—
②	臨床的意義	- 対象疾患が定まっている（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - 使用目的、または効能・効果が定まっている（医療機器） - 医療現場での必要性（アンメットメディカルニーズ）があるか - 対象疾患の希少性、難病性	—
③	開発方針の妥当性	- POCに基づく開発戦略が立てられている - 開発方針（課題）が明確になっていて、非臨床POCが取得されている - PMDA相談（非臨床・品質・開発前、臨床プロトコル等）を済ませており、指摘事項への対応がなされている - Go/No-Go基準が明確で妥当である	—
④	研究実施体制	- 適切な評価項目が設定され評価方法が定まっている - 評価方法に特色・優越性がある - 利益相反関係が適切である - 共同開発企業（あるいは導出先企業）がいる - 試験（臨床研究・治験）の実施体制が構築され、役割分担が明確である - 倫理面への配慮がなされている - 患者の選定にあたり、リスクベネフィット評価がされており、安全に試験が実施できる体制が構築されている 1年以内に試験が開始できる - 期間内に試験が完遂できる - 事業の推進が期待できる導出先が確定している	—
⑤	開発ステージ	- 開発対象物が最終化されている（医薬品、再生医療） - 最終製品に近いもの、あるいは上市予定品の完成の目途がたっている（医療機器） - 試験物の製造体制および供給体制（治験薬GMP準拠またはQMS準拠）が整っている（医薬品、医療機器、再生医療） - 造腫瘍性試験、軟寒天コロニー試験、life-long試験などの結果がある（再生医療） - 薬物動態の結果がある（医薬品、再生の一部） - GLP試験結果（毒性、安全性薬理、遺伝毒性など）がある（医薬品） - 生物学的安全性試験、電気的安全性試験、機械的安全性試験などの結果がある（医療機器） - 作用メカニズムに基づく非臨床有効性データが妥当（医薬品、医療材料等の医療機器、再生医療） - 原理や性能、特性を示す非臨床データがある（医療機器）	—

総合評価（絶対評価）：10点満点



【シーズpreF/B/F/C(a)/C(b)/F#】 選考スケジュール

募集案内と個別相談

- ◆ 先端医療研究開発機構HPおよびメールにて募集案内
- ◆ 研究内容に関する個別相談会（30分程度）をHP※より受付

募集（9/1～9/25 正午締切厳守）

書面審査（10月）

- ◆ 1課題あたりの評価者数・・・選定評価委員（MD 6名＋開発経験者 5名：計 11名）
- ◆ 評価項目・・・preF/B/F/C(a)/C(b)/F#ともに5項目を参考に総合評価
（preF:相対評価、B/F/C(a)/C(b)/F#：絶対評価）
- ◆ 知財担当者が2次審査圏内の課題について事業との関連性をチェック
- ◆ ヒアリング対象シーズと件数を決定のため、選定評価委員会開催（実会議（11/6））

ヒアリング審査（12/3）

- ◆ AMED申請シーズ候補の順位を確定

AMED申請シーズ候補決定（12/3）

- ◆ AMED橋渡しpreF/B/F/C(a)/C(b)/F#の申請準備

（AMED 公募開始（12月末予定））

AMED申請（1月末）



【シーズpreF/B/F/C(a)/C(b)/F#】 応募資格、留意点

■ 応募者資格

- 大学・研究機関等所属の研究者(常勤)であれば応募可※

※シーズFに限り、研究開発代表者を企業担当者より選出することが可能である。

■ 留意点

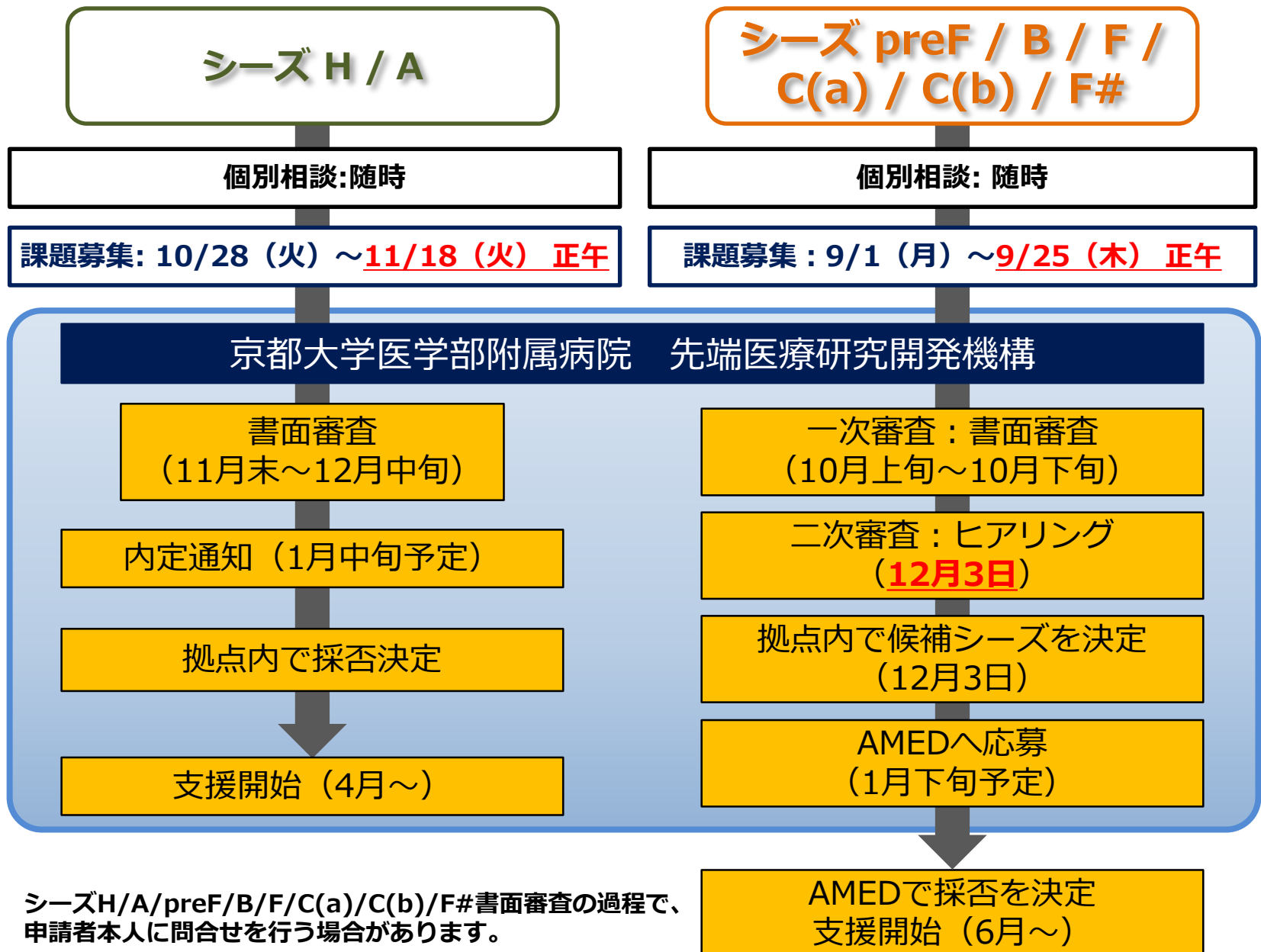
- 2026年度の申請数の上限、申請枠組み、委託費額等は未定です。
- シーズpreF/B/F/C(a)/C(b)/F#への申請には、**関連特許の出願**が必要となります。
- シーズB/Fの申請を予定される場合には、AMED公募前の拠点シーズ登録と**非臨床試験項目**のPMDAとの計画合意(**対面助言(有料)の実施済みであり、事前面談並びに総合相談(無料)ではない**)による**相談記録(押印済)**が必須となります。対面助言の相談記録(押印済)がAMED申請〆切前までに準備できない場合には、シーズpreFへの申請となります。
- シーズC/F#への申請には、臨床試験実施計画書が必要となります。なお、シーズC(a)への申請の場合は臨床試験実施計画書の案(骨子)にて申請可能です。
- シーズC(b)/F#の申請を予定される場合には、AMED公募前の拠点シーズ登録とPMDAとの**臨床試験計画**合意(**対面助言(有料)の実施済みであり、事前面談並びに総合相談(無料)ではない**)による**相談記録(押印済)**が必須となります。対面助言の相談記録(押印済)がAMED申請〆切前までに準備できない場合には、シーズC(a)への申請となります。
- 他事業との重複申請は可能です。ただし、他事業がAMED事業のような実用化を目的とした事業であり、**開発品および対象疾患が同じ課題については、重複受給は不可**とします。重複して採択された場合はいずれかを辞退していただく必要があります。
- 採択シーズについては、料金表に基づく拠点への支援経費の支払が必要となります。

申請書類のまとめ

シーズ	申請書類	募集期間
シーズH	シーズH申請書 シーズH申請用説明スライド	10/28(火)～ 11/18(火)正午
シーズA	シーズA申請書 シーズA申請用説明スライド	
シーズpreF	シーズpreF申請書 シーズpreF申請用説明スライド	9/1(月)～ 9/25(木)正午
シーズB/F	シーズB/F申請書 PMDA対面助言相談記録（非臨床試験項目）	
シーズC(a)	シーズC申請書 臨床試験計画書	
シーズC(b)	シーズC申請書 PMDA対面助言相談記録（臨床試験計画） 臨床試験計画書	

※申請書類は全てPDFに変換した上で、期限までにWebフォームよりご提出下さい。

公募スケジュール



※ シーズH/A/preF/B/F/C(a)/C(b)/F#書面審査の過程で、申請者本人に問合せを行う場合があります。

問い合わせ先

■ お問い合わせ先

シーズ H

シーズ A

シーズ preF / B / F / C(a) / C(b) / F#

シーズ応募に関するお問い合わせは、下記よりお願いいたします。
お問合せ : <https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/brform/seeds-inquiry/>

事務手続き

京都大学医学部附属病院
臨床研究戦略課
機構支援掛

E-mail: kucnslt@kuhp.kyoto-u.ac.jp

シーズ応募相談会

各シーズの応募に関するご相談

実施期間 : **随時**

対 象 者 : 2026年度橋渡しシーズ申請を検討中の研究者

相談内容 : 各シーズの申請要件を満たしているか 等

相談時間 : 30分程度

相談人数 : 数人程度まで可 (企業担当者同席可)

相談場所 : Web会議

iACTのHPよりお申込みください

⇒ <https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/brform/seeds-inquiry/>



WEB申込方法

シーズ応募に関わるお問合せ（メール回答まで）

応募シーズの該当性などシーズ応募に関わる質問は下記より

シーズ相談フォーム 

シーズ相談フォーム

氏名 必須	
フリガナ 必須	
所属機関・診療科・研究室等 必須	例：京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構
役職名 必須	例：教授
電話番号 必須 (半角数字)	電話番号 内線 or PHS番号 (ハイフン不要、電話番号もしくは内線・PHS番号いずれか入力)
メールアドレス 必須	
メールアドレス 必須 (確認用)	
検索対象 必須 (複数回答可)	☐ 医家医師 ☐ 医務院等 ☐ 体外診断座 ☐ 学生医師等職員 ☐ 未定
提携企業 必須	☐ 有 ☐ 無
相談内容 必須 ※シーズをお選びください	☐ シーズH（区分野） ☐ シーズA ☐ Opnet ☐ シーズB ☐ シーズT ☐ シーズC ☐ 未定
	相談内容を記載してください
希望相談方法 必須	☒ メール ☐ Web面談
【学内研究者のみ】 学術研究振興センター [※] の同席	☐ 希望する ☐ 希望しない ※学術研究振興センターは、科研費やAMED事業をはじめとする外部資金の採択可能化アップのための情報提供、研究提案書レビュー等の支援を行います。
研究課題名	
研究概要	研究概要を記載いただくか、参考資料を添付してください。 (※出願前および発表前の情報は伏せ記載ください)